

17 明治5年7月11日 菊池長閑宛

第八号 七月十一日

(長閑注記1)

残暑之節愈御安康奉珍賀候先達万次郎登り参委細御起居承安心
罷在候同人義素が登京之積ニ無之候処不図参候趣にて昨日被招
同道仕西洋料理店ニ於テ御馳走ニ相成候難逢人ニ不図も再会致
実ニ愉快ニ有之候併熟談ニ及兼其而已ハ遺憾ニ御座候士族御廢
之義は先達議院出仕之人ニ逢候節顯ニ話不申候得共不遠其方可
相成様之咄振ニ有之候其法方之如ハ勿論咄不申候得共只自分
説と申事にて談候趣ハ殆と先便被仰遣候説ト同一に有之候華士
族不拘と申事如何ニ可有之や併御当地之説ハ実ニ可有之欵も難
計候左様なれハ誠ニ愉快之事ニ候得共如仰橋場にてハ御窮迫ニ
可有之候此頃御暑中伺申上候尊前も宜と□□願候本宿之御
叔父様当時松根油御製造之由当地ニ御出にて暫時之間御験来な
れハ猶宜可有之と愚考罷在候御序ニ宜御鶴声奉希望候先ハ万次
郎帰県ニ付颯と申上候頓首

(長閑注記2)

御尊父様 (長閑注記3)

武夫拜

閣下

乍憚六〇月給客方并大須賀へも宜御伝ノ程奉仰願候以上

(長閑注記1)

「第八号十月十一日附」

(長閑注記2)

「第八号七月十一日附也」

(長閑注記3)

「八月九日藤森万次郎〆達之

」右返事八月十九日第十号を認出し」